

山陽特殊製鋼の歩み



NIPPON STEEL

1933~

創業、激動の時代を超えて

1933年、四代目山本東作により山陽製鋼所として創業。1935年には、会社設立とともに、軸受鋼の製造を開始しました。第二次世界大戦による混乱期を乗り越えた後は、大規模な設備投資を推進。戦後の日本産業の急速な発展に対応すべく、当社も事業を拡大しました。

1960~

急成長から試練の時代へ

1964年、拡大する特殊鋼需要に対応すべく進めてきた、当社の一連の合理化設備投資が完了。ところが、同時期に起きた「証券不況」の波にのまれ、1965年、当社はやむなく会社更生法を申請。しかし、事業体質強化に向けた会社挙げての努力が実り、1973年には再建を果たしました。

1980~

高度経済成長の時代の中で

1980年代には、主力工場である第二製鋼工場および第二棒線工場（現・中小形圧延工場）、さらに新規事業であった金属粉末の製造工場が完成。現在の当社を支える生産体制が整いました。

2000~

時代の変化に対応し、未来へ

2008年にリーマンショック、2011年に東日本大震災が発生。また、中国をはじめとする新興国経済の急成長などもあり、当社を取り巻く事業環境は大きく変化しました。こうした環境の変化に応じ、当社は事業体質の強化を進めるとともに、グローバル展開を推進。

2025

新たなステージでさらなる飛躍へ

2025年4月、日本製鉄株式会社の完全子会社となり、新たなスタートを切りました。これまでに培った特殊鋼製造技術を核として、日本製鉄グループ内で中核的存在として役割を発揮していきます。

- 1933 山陽製鋼所として創業
- 1935 山陽製鋼株式会社設立
- 1939 大阪証券取引所に株式上場
- 1954 東京証券取引所に株式上場
- 1959 商号を山陽特殊製鋼株式会社に変更
継目無鋼管製造設備（2,000トン熱間押出プレス）完成
- 1960 分塊圧延機および大形圧延機完成
- 1963 大阪特殊製鋼（株）を吸収合併
- 1965 会社更生法適用申請・株式上場廃止
- 1970 継目無鋼管製造設備（アッセルミル）完成
- 1973 60トン2号電気炉完成
会社更生手続き終結
- 1974 陽鋼物産株式会社設立
- 1980 大阪証券取引所に株式再上場
- 1982 山特工業株式会社設立
第二製鋼工場完成
- 1983 3,000トン高速鍛造プレス機完成
- 1985 東京証券取引所に株式再上場
- 1986 第二棒線工場（現・中小形圧延工場）完成
- 1988 金属粉末製造工場および金属粉末加工工場完成
- 1990 サントクコンピュータサービス株式会社設立
SKJ Metal Industries Co., Ltd.（タイ）設立
- 1992 1,500トン高速鍛造プレス機完成
- 1993 山陽特殊製鋼文化振興財団設立
- 1996 SANYO SPECIAL STEEL U.S.A., INC.（アメリカ）設立
- 2000 サントク精研株式会社設立
- 2001 寧波山陽特殊鋼製品有限公司（中国）設立
- 2004 サントクテック株式会社設立
- 2006 新日本製鉄株式会社（現・日本製鉄株式会社）の持分法適用関連会社となる
- 2011 山陽特殊鋼貿易（上海）有限公司（中国）設立
5,000トン自由鍛造プレス機完成
- 2012 60トン連続鑄造設備完成
Mahindra Sanyo Special Steel Pvt. Ltd.
（現・Sanyo Special Steel India Pvt. Ltd.）（インド）設立
- 2014 Siam Sanyo Special Steel Product Co., Ltd.（タイ）設立
- 2015 Sanyo Special Steel Manufacturing de México, S.A. de C.V.（メキシコ）設立
- 2017 第二粉末工場完成
- 2018 Mahindra Sanyo Special Steel Pvt. Ltd.
（現・Sanyo Special Steel Manufacturing India Pvt. Ltd.）（インド）を子会社化
- 2019 日本製鉄株式会社の連結子会社となる
Ovako Group AB（スウェーデン）を完全子会社化
- 2022 東京証券取引所市場第一部からプライム市場に移行
- 2024 Sanyo Special Steel Manufacturing India Pvt. Ltd.（インド）を完全子会社化
- 2025 日本製鉄株式会社の完全子会社となる
株式上場廃止